

高次脳機能障害について

ゆきよしクリニック
山浦祥宏 三村健

はじめに

- 脳には、知的能力や運動能力などの基礎的な能力と、知識に基づいて行うことができる言語能力や集中力、注意・記憶力・遂行機能などの高い能力を備えています。
この高い能力のことを「高次脳機能」といいます。
- 「高次脳機能障害」とは、高次脳機能の障害によって、生活や仕事に支障をきたす、または制限されることをいいます。
- 今回は高次脳機能障害について簡単に内容、実際の訪問リハでの対応を紹介していきます。

高次脳機能障害と発生理由

- 高次脳機能障害

脳卒中や頭部のけが、交通事故などで脳が損傷を受けて、言語や記憶などの機能に障害が起きた状態.

発生理由は脳血管障害, 脳外傷, 脳腫瘍で全体の94%を占めている. その他として低酸素脳症やウイルス性脳症, アルコール中毒によって発症する場合もある.

- 記憶障害

物をしまった場所を忘れたり同じことを何度も聞いたりする

- 注意障害

物事に集中して取り組むことができず、ちょっとしたことで気が散ってしまう

- 遂行機能障害

予定や計画をたてたり、変化する状況に上手く対応できない

- 社会的行動障害

行動や感情を場面や状況にあわせて、適切にコントロールできない

- 失語

言葉を理解する、話を組み立てる、読んだり書いたりすることができない

- 失認

半側空間無視、身体失認等、対象物を認知できない

- 失行

運動可能であるにもかかわらず合目的な運動ができない
観念運動失行 着衣失行 等

症例紹介

基本情報

認知症 記憶障害 遂行機能障害

- 83歳女性 独居(高専賃)平成20年5月訪問リハ開始
- 23年8月に自宅から高齢者専用賃貸へ転居
- 訪問リハ頻度週2回
- 立位動作見守り 移動手段は車いす
- 移乗等, 立位動作時に転倒することが多い

訪問リハ

- 転倒予防
- 体力低下防止

移乗時の転倒状況

車いす, ベッド間の移乗動作	実行状況
1 車いすをベッド脇に止める	OK
2 ブレーキをかける	OK
3 フットサポートを上げる	上げない

転倒予防策

- 動作練習

動作を繰り返し練習して無意識に正しい車いす操作ができるようにできるように

- 車いす調整

フットサポートを上げる動作を省略するため

- 歩行練習

体力・下肢筋力, バランスの向上を目的として

車いす調整

- 調整前



- 調整後



結果

- 動作練習と環境調整を中心に対応した
- 動作手順は以前と大きな変化はなかった
- 転倒の頻度は減少した
平成23年10月中の転倒6回，年末年始に数回，以降は転倒なし

症例紹介2

基本情報

脳梗塞 社会的行動障害

- 78歳男性 妻と2人暮らし
- 平成21年退院 退院直後から訪問リハ開始
- 痛みの訴えが強烈で時により起居, ADL介助を拒絶することも
- 平成24年5月下旬から拒否がさらに強くなり妻の介護負担増

訪問リハ

- 身体機能の維持・向上練習
- 起居・ADL介助方法の提案や助言

痛み，介護拒否・不穩に対して

- 在宅生活を継続するためのサービス担当者会議
多事業所間で現状の再確認と対応策

デイサービス：介助人数を増やす

ショート：負担が大きいときの避難場所

訪問リハ：介助方法，福祉機器の紹介

ケアマネ：多事業所間の調整

医師：薬の調整

結果

- ショートステイを利用することで妻の介護負担が軽減した.
- 多事業所職員間で顔を合わせることでそれぞれの連絡や相談がしやすい環境になった.
- 薬により痛みが軽減し介護への拒否が軽減した.

考察

- 身体機能面に対してのアプローチに加え、環境調整やチーム連携も大切.
- 訪問リハでは対応できない薬物療法によって在宅生活を円滑に送ることができるケースもある.
- 在宅生活を継続していくためには介護保険事業所だけでなく、Drとの連携は非常に重要.